

2022年度 事業報告書

I. 事業の概況

今年度は、例年どおり、研究等への助成事業や奨学金給付事業を行った。
それぞれの事業の実施状況は、以下のとおりである。

<公益目的事業1>

1. 都市に関する学術研究に対する助成（定款第4条1項1号）

（1）一般研究者への助成

① 対象

都市計画・都市景観、都市環境工学、都市交通システム・エネルギー計画、建築技術、都市建築史、都市と文化、都市政策、都市経済などに関連する研究を行う一般研究者

② 募集

2022年7月1日当財団のホームページに募集要項を掲示し、国公立大学等に募集案内を送付したうえで、同年10月1日から11月7日（当初10月31日までだったところ、新型コロナ感染拡大の影響を鑑み、11月7日まで延長）までの間応募を受け付けた。

③ 選考

89件の応募があった。

応募案件それぞれについて3名の選考委員によって、次の評価要素を勘案し、事前審査が行われた。

- a. 発想の独創性
- b. 研究計画の実現性
- c. 研究又は研究体制の発展への貢献度
- d. 財団の助成対象としての適合性

2023年1月23日開催の第23回選考委員会において、8名の選考委員が事前審査の結果を踏まえて、71名の助成候補者を選定し、理事長に報告した。

理事長が研究助成対象者71名の採択を承認したので、2023年2月22日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。

（計 102,370 千円）

（2）若手研究者への助成

① 対象

大学院修士又は博士課程に在籍し、都市に関するテーマを専攻する若手研究者

② 募集

(1) 一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

15件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、奨励研究助成候補者14名を選定し、理事長に報告した。

理事長が奨励研究助成対象者14名の採択を承認したので、2023年2月22日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。

(計 11,200 千円)

(3) 在外実務研修助成について

① 対象

大学院修士又は博士課程に在籍し、都市に関連する学術分野を専攻する学生のうち海外の研究機関、設計事務所等で実務研修を受けようとする者

② 募集

(1) 一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

本年度は応募者がなかった。

2. 都市に関する学術研究を行う海外に在住する研究者の招聘及び日本に在住する研究者の海外派遣に対する助成 (定款第4条1項2号)

① 対象

都市に関する学術的な国際会議、学会または共同研究等のために来日する海外に在住する研究者の招聘、又は同様の目的で渡航する日本に在住する研究者の海外派遣

② 募集

1の(1)一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

4件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、国際交流助成候補者4名を選定し、理事長に報告した。

理事長が国際交流助成対象者4名の採択を承認したので、2023年2月22日、応募者全員に採択の旨を通知した。

(計 3,590 千円)

3. 都市に関する国際会議、研究集会、シンポジウム及びセミナー等の開催に対する助成 (定款第4条1項3号)

(1) 国際会議助成について

① 対象

日本で開催される都市に関する国際会議等

② 募集

1の(1)一般研究者への助成の場合と同じ

③ 選考

12件の応募があった。

一般研究者への助成の場合と同様の審査過程を経て、国際会議助成候補8件を選定し、理事長に報告した。

理事長が国際会議助成対象8件の採択を承認したので、2023年2月22日、応募者全員に採択又は不採択の旨を通知した。

(計 11,300 千円)

(2) 学術講演会、展示会、セミナーなどの開催等への助成

以下の5件について助成を行なった。

① サラ・モリス展 (仮称)

② なら国際映画祭 2022/なら国際映画祭 ForYouth2022

③ 丹下健三と隈研吾展

④ Sarah Sze 展

⑤ 特別展 春日若宮式年造替奉祝

「杉本博司-春日神霊御生御蓋山そして江之浦」

(計 5,345.3 千円)

4. 都市に対して新たな視点からの提言、研究等を行う制作者等への助成 (定款第4条1項5号)

第3回制作助成対象者のエキソニモによる活動を記録した冊子の作成を行った。3月13日から財団ホームページにて記録冊子の申し込みを受け付け、350件を超える応募があった。4月13日までに申込者全員に発送した。

また、2022年10月26日開催の第24回推薦選考委員会にて、イム・ミノク氏を第4回制作助成対象者として理事会に推挙することを決定し、第74回理事会で承認された。

氏名 イム・ミノク (Lim Minouk)

(略歴)

1968年、韓国生まれ。

ソウルの急激な都市開発に対する危機感から制作された一連の初期作以降、彫刻、映像、写真、インスタレーション、ツアー・パフォーマンス、音楽など、さまざまなメディアと触覚性を喚起する素材で、都市の変貌に対する人々の危機感や記憶の喪失をテーマにした作品を制作してきた。その後、家族や国家のルーツに対する問いから、南北朝鮮や日韓といった国家間の歴史の衝突やイデオロギーに起因する解なき問いに対して応答する作品も多く手掛ける。

(計 6,380 千円)

5. 都市に関する学術研究等において優れた成果を上げた研究者に対する顕彰
(定款第4条1項4号および6号)

第12回大林賞の受賞者にオードリー・タン氏が決定したが、新型コロナ感染拡大の影響や同氏のスケジュール調整が困難だったことにより、本年度中の来日及び受賞記念シンポジウムの開催はできなかった。オードリー・タン氏より「Global Classroom」と題したレクチャー(動画)をいただき、これらのイベントに代えて財団ホームページにて配信することとした。

(計 1,195 千円)

6. 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成する為に必要な事業
(定款第4条1項8号)

助成事業関係費を支出した。

(計 4,230 千円)

<公益目的事業2>

7. 都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする国内学生及び留学生に対する学資の給与及び支援等(定款第4条1項7号)

(1) 奨学生選考

① 募集

2021年12月8日に国公立大学(財団指定校)に募集案内を送付したうえで、2022年4月1日から5月16日までの間応募を受け付けた。

② 選考

9大学から12件の応募があった。

それぞれの応募者について、5名の奨学生選考委員によって、次の評価

要素を勘案し、審査・面接が行われた。

- a. 都市に関連ある分野の実業、実務又は学術研究に将来従事しようとする意志があること
- b. 人物、学業、健康ともに優れていること
- c. 奨学生交流会等、当財団の行事に積極的に出席する意志があること

2022年7月19日開催の14回選考委員会において、12名の候補者を選定し、理事長に報告した。

理事長が2022年度奨学生(第11期)12名の採択を承認したので、2022年7月20日、奨学生及び各大学に採用決定の旨を通知した。

(2) 奨学給付金

① 第8期生(1名)・第9期・第10期生

学期終了後、生活状況報告書、学業成績証明書などの提出を受け、全員給付継続とし、5月、7月、10月、1月に各3ヶ月分をそれぞれ給付した。

② 第11期生

2022年8月5日、第1回奨学給付金6ヶ月分を振込み、以降10月、1月にそれぞれ3ヶ月分を給付した。

(計 32,400千円)

(3) その他、奨学事業に係る事業について

① 2022年度奨学生採択決定通知書授与式・交流会を、下記の通り実施した。

日時 2022年8月29日 16:00~17:30

場所 オンライン開催

出席者 奨学生 12名、財団関係者 12名

当初は実開催を予定していたが、第7波による新型コロナウイルス感染者数拡大等を鑑み、オンラインに変更して開催した。

② 第9期、第10期生希望者のみ参加の技術研究所見学会を開催した。

大人数での見学を避けるため、2日間にわたり合計4回の見学会を開催した。

日時 2022年8月9日、10日午前・午後

場所 株式会社大林組 技術研究所

参加者 20名(2日間合計)

③ 2022年度奨学生修了式・交流会を、下記の通り実施した。

日時 2023年3月8日 16:00~18:00

場 所 授与式 株式会社大林組 本社3階講堂
交流会 同上30階レセプションホール
出席者 修了生 17名、財団関係者 8名

交流会については、従来参加していた奨学生 OB・OG は招待せずに修了生のみ参加で着席食事会形式の交流会を開催した。

(計 2,893 千円)

(注) 上記1～3の各助成対象者の氏名、研究内容等については、事報－7～19の一覧表に記載のとおり。

上記7の奨学生採択者大学名については、事報－22に記載のとおり。

【附属明細書について】

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」に規定する「附属明細書」に該当する事項はありません。

2022年度研究助成採択者一覧（71名）

（単位：万円）

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
1	上野 貴広	ウエノ タカヒロ	早稲田大学 理工学術院 講師(任期付)	エネルギーネットワークモデルを用いた東京都島嶼部におけるエネルギー自立化の検討	150
2	白崎 伸隆	シラサキノブタカ	北海道大学大学院 工学研究院 環境工学部門 環境工学分野 准教授	感染力評価と外殻タンパク質損傷評価を併用した水道原水河川における病原ウイルスの存在実態の把握	150
3	近藤 智士	コンドウ トモノリ	福井工業大学 環境情報学部 経営情報学科 准教授	地方圏におけるネットワーク型都市形成に必要な人口密度水準の推計	122
4	白井 佑樹	シライ ユウキ	神奈川大学 建築学部 助教	3次元点群データを活用した鎌倉大仏の耐震安全性能評価	150
5	深堀 清隆	フカホリ キヨタカ	埼玉大学 大学院理工学研究科 准教授	照明シミュレーターによる街路空間の眺望隠れ場の検出と歩行環境評価	150
6	間所 洋和	マドコロ ヒロカズ	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 准教授	アグリデジタルツインによる都市型リモート農業の基盤構築	150
7	永井 拓生	ナガイ タクオ	滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科 講師	ヨシを原材料としたストランドボードの開発－ヨシの特性がボード性能に与える影響の検証およびボード性能の高度化	150
8	山下 哲郎	ヤマシタ テツオ	工学院大学 建築学部 建築学科 教授	小断面木材の弾性曲げで形成する積層ラチスシェル構造の形状形成および座屈崩壊実験	150
9	落合 正行	オチアイ マサユキ	日本大学 理工学部まちづくり工学科 助教	空き家の地域的活用におけるリスクマネジメント構築に関する研究	150
10	稲積 真哉	イナヅミ シンヤ	芝浦工業大学 工学部土木工学科 教授	地盤環境保全に資する「地中既存杭」の処理技術開発とグラウンドデザインの創造	150
11	アルワシャリ ハモード	アルワシャリ ハモード	岡山大学 学術研究院環境生命科学学域（工学部都市環境創成コース） 准教授	鉄筋コンクリートラーメン造とCLTパネルをせん断壁として用いるハイブリッド構造に関する研究	150

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
12	神谷 浩二	カミヤ コウジ	岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授	濃尾平野の生活基盤を支える地下 水資源の涵養機能の将来予測	146
13	田中 尚人	タナカ ナオト	熊本大学 大学院先端科学研究部 准教授	瀬戸内の地域づくりにおける自治 と交流に関する研究	110
14	江口 久美	エグチ クミ	一般社団法人九州オープンユニ バーシティ 研究部 研究員	ポストコロナを見据えたシンピオ ント・モビリティ社会の構築	150
15	小林 恵吾	コバヤシ ケイゴ	早稲田大学 創造理工学研究科建築 学専攻 准教授	被災後を生きる――各被災地の復 興まちづくりや生活再建で得られ た知見の比較研究及び、対外発信 ツールの開発と被災地ネットワー クの構築	150
16	藤林 恵	フジバヤシ メグム	九州大学大学院 工学研究院環境社 会部門 助教	青色LEDを用いた生態系機能強化 による公園池の水環境改善技術の 開発	149
17	江端 一徳	エバタ カズノリ	豊田工業高等専門学校 環境都市工 学科 講師	グリーンインフラの利用を目的と した広葉樹林の樹冠流量および 降雨遮断量推定モデルの開発	150
18	平山 由佳理	ヒラヤマ ユカリ	工学院大学 建築学部まちづくり学 科 准教授	雨水流出抑制と暑熱対策の両立	150
19	高橋 佑磨	タカハシ ユウマ	千葉大学大学院理学研究院 生物学 研究部門 准教授	都市騒音が昆虫類の活動や睡眠、 遺伝子発現に与える影響の評価	150
20	石垣 範和	イシガキ ノリカズ	名古屋大学大学院 工学研究科 助 教	建築物の蓄電拠点化にむけた酸化 物全固体二次電池の開発	150
21	小澤 雄樹	オザワ ユウキ	芝浦工業大学 建築学部 教授	ロッキング柱による木造住宅の応 答制御と中層木造建物への適用に 関する研究	150
22	安 箱敏	アン サンミン	呉工業高等専門学校 建築学分野 准教授	日本統治期末の市街地計画から韓 国解放後の1962年大韓民国都市計 画法制定までの都市再編成に関す る研究～ソウル・仁川地域を中心 に	150
23	小松 怜史	コマツ サトシ	横浜国立大学大学院 都市イノベ ーション研究院 准教授	地震や断層変位で損傷した地中 RC構造物の貯水性能評価法の高 度化	150

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
24	溝上 章志	ミゾカミ ショウシ	熊本学園大学 経済学部 教授	都市中心部における駐車場の適正な配置と容量の設定に関するモデル分析	149
25	山名 善之	ヤマナ ヨシユキ	東京理科大学 工学部建築学科 教授	旧仏領インドシナの都市計画における屋根付き市場に関する研究	150
26	岡田 京子	オカダ キョウコ	(公財)高輝度光科学研究センター 放射光利用研究基盤センター 回折・散乱推進室 研究員	水素バーナーと省エネルギーでリサイクル可能な機能性インフライトガラスで、都市環境・産業活動・日常生活を地球と共存の豊かなエコにする	150
27	角田 貴之	カクダ タカユキ	中央大学 工学部 人間総合理工学科 助教	新規リン吸着膜を活用した都市下水中有機物とリン同時回収技術の開発	150
28	永井 久也	ナガイ ヒサヤ	三重大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授	超高層建築物の避難安全区画の排煙性状解析と最適排煙設備設計手法に関する研究	150
29	鈴木 孝男	スズキ タカオ	新潟食料農業大学 食料産業学部 食料産業学科 教授	風土適応型防災・減災まちづくりの計画手法に関する研究	150
30	坂本 淳	サカモト ジュン	高知大学 教育研究部自然科学系理工学部門 講師	人口減少・超高齢時代における津波防災対策のバックキャスト型シナリオ	100
31	金子 健作	カネコ ケンサク	大阪公立大学 大学院 工学研究科 都市系専攻 講師	既存不適格建築物のデジタルツインによる京阪神都市圏の地震レジリエンス評価	150
32	白井 和貴	シライ カズタカ	北海道大学大学院 工学研究院建築都市部門 准教授	負剛性接続された連棟制振構造の地震応答低減効果に関する研究	150
33	鈴木 弘樹	スズキ ヒロキ	千葉大学 工学研究院 准教授	フィリピンメトロマニラ近郊における都市型地震水害の復興住宅に関する研究	150
34	沼田 麻美子	ヌマタ マミコ	土地総合研究所 総務部 研究員	ドイツにおけるエネルギー政策と歴史的建造物の価値観の転換	150
35	鈴木 有美	スズキ トモミ	大阪大学大学院 工学研究科 助教	地震ラケットを受けるRC造柱の残余構造的な性能に関する解析的研究	150

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
36	中島 徹	ナカジマ トオル	東京大学 大学院農学生命科学研究科 助教	大規模計算機資源に立脚した都市領域での自然環境体験プログラム構築	150
37	洪 銅基	ホン ドンギ	九州大学 人間環境学研究院 都市・建築学部門 特任助教（学術研究員）	都市のエネルギーバランスを保つための電気自動車充電所の最適立地モデルの開発	150
38	李 尚曄	イ サンヨプ	東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 助教	電波親和型壁構造に関する研究	150
39	竹内 智子	タケウチ トモコ	千葉大学大学院 園芸学研究院 准教授	東京臨海部「潮入りの庭」の分布・構造・都市機能に関する研究	123
40	渡邊 康司	ワタナベ コウジ	愛知工業大学 工学部土木工学科 准教授	変形追随性を有するソイルベントナイト鉛直遮水壁の動的挙動および遮水性能に関する基礎的研究	150
41	大塚 彩美	オオツカ アヤミ	東京家政大学 家政学部環境教育学科 特任講師	地域エネルギーの促進に資するシナリオ分析を用いた継続的・重層的市民対話モデルの確立	150
42	瀬下 博之	セシモ ヒロユキ	専修大学 商学部 教授	都市における効率的な土地の転用を促進させるための経済学的研究	150
43	橋本 彼路子	ハシモト ヒロコ	長崎総合科学大学 工学部工学科建築学コース 教授	歴史ある遺跡を中心とした公園計画とまちあるき拠点による地域創生計画	125
44	宮脇 靖典	ミヤワキ ヤスノリ	岡山理科大学 経営学部 経営学科 教授	資源統合の視点によるまちづくりの可能性に関する研究	138
45	鈴木 一史	スズキ カズフミ	群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	車道上での電動キックボード混在時の安全・快適な道路空間デザイン	150
46	堀川 真之	ホリカワ マサユキ	日本大学 工学部建築学科 専任講師	曲げ終局時における主筋の座屈と破断をシミュレートする正則化RC骨組要素の提案と精度検証	145

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
47	荒木 菜見子	アラキ ナミコ	米子工業高等専門学校 総合工学科 建築デザイン部門 助教	岐阜駅前繊維問屋街における戦後 復興期から高度成長期にかけての 街区の形成・変容過程と人的集合 体の相互作用に関する研究	126
48	稲吉 晃	イナヨシ アキラ	新潟大学 人文社会科学系 教授	戦後日本の都市開発についての政 治史研究：港湾から臨海部への転 換	112
49	金澤 伸一	カナザワ シンイチ	新潟大学 工学部工学科社会基盤 工学プログラム 准教授	豪雨に起因した河川堤防崩壊機構 に関する研究	150
50	市川 紘司	イチカワ コウジ	東北大学大学院 工学研究科 都 市・建築学専攻 助教	戦後日本の建築家・ゼネコンによ る東～東南アジア・プロジェクト に関する歴史研究	150
51	古賀 靖子	コガ ヤスコ	九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 准教授	建築光環境・視環境設計における 3D都市データの利用	150
52	佐藤 将	サトウ ススム	東京外国語大学 アジア・アフリカ 言語文化研究所 研究機関研究員	東京大都市圏における母親の生活 行動からみた子育てと仕事の両立 可能要因	100
53	川崎 興太	カワサキ コウタ	福島大学 共生システム理工学類 教授	原発避難市町村の復興まちづくりに 関する研究	150
54	平岡 透	ヒラオカ トオル	長崎県立大学 情報システム学部 情報システム学科 教授	長崎市東山手・南山手地区におけ る歴史まちづくり計画のための データ分析に関する研究	100
55	鈴木 勉	スズキ ツトム	筑波大学 システム情報系 教授	都市拠点の人流パターン解析と市 街地構造変容のモデル分析研究	150
56	全 泓奎	ジョン ホンギョ	大阪公立大学 都市科学・防災研究 センター／現代システム科学研究 科 教授	東アジアにおける社会的不利地域 の居住支援に向けたアクションリ サーチ	150
57	濱田 栄作	ハマダ エイサク	琉球大学 教育学部 教授	市民の合意形成スキルの向上を目的 にしたゲーム教材の開発	150
58	Drianda Riela Provi	ドリアンダリーラ プロビ	早稲田大学 社会科学部 准教授	大都市における遺跡の創造的な活 用に関する研究：首都圏の事例	109

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
59	浅井 竜也	アサイ タツヤ	名古屋大学大学院 環境学研究科 助教	RC造梁部材の変形・破壊メカニ ズムの詳細な解明	150
60	薄井 宏行	ウスイ ヒロユキ	東京大学大学院 工学系研究科都市 工学専攻 助教	高齢者等の継続歩行距離を考慮し たシティベンチの逐次配置方法の 開発	135
61	E RIDENGAOQIER	エルドンオチル	東京理科大学 工学部 建築学科 嘱託助教	AI（人工知能）による透水性コン クリートの空隙率推定に関する研 究	150
62	西堀 泰英	ニシホリ ヤスヒデ	大阪工業大学 工学部都市デザイン 工学科 特任准教授	コミュニティ交通導入による外出 促進がもたらす経済的・健康的効 果の評価方法に関する研究	150
63	小関 慶太	コセキ ケイタ	八洲学園大学 生涯学習学部 奨学 学習学科 准教授	子どものスケートボードの遊技・ 競技と都市空間の環境整備に関す る研究	150
64	坂井 猛	サカイ タケル	九州大学 大学院 人間環境学府 キャンパス計画室 教授	日本・韓国における都市景観施策 の誘導手法に関する研究	150
65	藤田 吾郎	フジタ ゴロウ	芝浦工業大学 工学部電気電子学群 電気工学科 教授	鉄道軌道の簡易な予防保全に関す る研究	150
66	菅原 邦生	スガハラ クニオ	新潟青陵大学 短期大学部人間総合 学科 准教授	都市の近代化と街灯の建設 明治 期の港町新潟における街灯の構造 と補修について	150
67	小川 拓郎	オガワ タクロウ	九州大学大学院人間環境学研究院 教育学部 国際教育環境学 助教	古代ローマ都市オステティアにおけ る地盤面嵩上げのメカニズム	150
68	梶田 佳孝	カジタ ヨシタカ	東海大学 建築都市学部土木工学科 教授	歩行者と自転車及び自動車が混在 する通学路の交通環境改善手法の 提案	150
69	西尾 洸毅	ニシオ ヒロキ	八戸工業大学 工学部工学科 建 築・土木工学コース 講師	人口減少地方都市における生活施 設の立地確率推定と住環境変化の 将来予測	150
70	高山 明	タカヤマ アキラ	東京藝術大学大学院 映像研究科メ ディア映像専攻 教授	タブリーズ（イラン）のグランド バザールの研究	150

No.	氏名	フリガナ	所属・職名	研究課題	助成額
71	中山 敬太	ナカヤマ ケイタ	早稲田大学 社会科学総合学院 助手(常勤)	都市政策における新たなリスクコミュニケーション・デザインを促進するまちづくりのあり方に関する研究—ナッジによるアプローチを中心に—	148

合計 10,237

2022年度奨励研究助成採択者一覧（14名）

（単位：万円）

No.	氏名	フリガナ	所属	研究課題	助成額
1	稲田 浩也	イナダ コウヤ	京都大学大学院 工学研究科 三浦研究室	Stable Diffusionを用いた画像自動生成AIによる景観計画のイメージ策定手法の開発	80
2	加藤 真人	カトウ マサト	京都大学大学院 工学研究科 交通行動システム分野	東京一極集中の是正及び分散・定住型社会における国土構造の在り方に関する実証的考察	80
3	伊藤 海音	イトウ カイト	東洋大学大学院 理工学研究科 二宮・新田研究室	小規模貯水施設が有する多面的機能の戦略的保全に資する分散型マネジメントの社会実装研究	80
4	Zhang Yuqi	チョウ ユチ	京都大学大学院 地球環境学舎 人間環境設計論	縮小都市における衰退するコミュニティの現状と解決策に関する研究	80
5	島崎 耀	シマザキ ヒカル	明治大学大学院 理工学研究科 建築計画設計研究室	小流域における水の循環と地形的特徴に関する研究 一気候変動適応策に基づく敷地計画に関する研究一	80
6	藤原 美菜子	フジワラ ミナコ	神戸大学大学院 工学研究科 中江研究室	日本における「セセッション」の伝搬過程について一洪洋社刊『セセッション図案集』及び『様式図解』に着目して	80
7	彭 俊雄	ハウ トシオ	京都大学大学院 工学研究科 都市基盤システム工学	継手構造の合理化を目的とした鋼管矢板基礎の水平力学挙動に関する研究	80
8	竹本 真	タケモト マコト	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 近代建築史研究室	1900年代の建築法整備にみる近代ドイツにおける建築の形態規定に関する研究	80
9	永田 臨	ナガタ ノゾム	愛媛大学大学院 連合農学研究科 都市防災計画研究室	運転者不足問題に対応した新しい公共交通の在り方についての検討	80
10	可児 綾加	カニ アヤカ	横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府建築都市文化専攻 建築環境工学研究室	温暖地域の木造戸建て住宅における温熱快適性・健康性向上のための間取り改修に関する研究	80

No.	氏名	フリガナ	所属	研究課題	助成額
11	松尾 和史	マツオ カズシ	筑波大学大学院 理工情報生命 学院システム情報工学研究 群 不動産・空間計量研究室 (堤盛人研究室)	オフィス供給の地理的分布と波及効果 に関する時空間分析	80
12	徐 子	ジョ シ	早稲田大学大学院 創造理工学 研究科 中谷礼仁研究室	生闘学舎（1981年建築学会作品賞）の 屋根材更新に伴う設計構法に関する実 測研究 - 枕木組積を用いた自力建設物 に内在する伝統技法の調査 -	80
13	Barua Srijon	バルア スリジョン	京都大学大学院 地球環境学舎 人間環境設計論	インフラとともに生きる：高架下の空 間管理と土地利用形態に関する比較研 究	80
14	溝口 哲平	ミゾグチ テッペイ	筑波大学大学院 理工情報生命 学院 公共心理研究室（谷口 綾子研究室）	「その場所を訪れること自体」を目的 とした本源的訪問に関する研究 - 中 心市街地訪問を事例として -	80

合計 1,120

2022年度国際交流助成採択者一覧（4名）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	所 属 ・ 職 名	研 究 課 題	助成額
1	澤田 茉伊 (派遣・共同研究)	サワダ マイ	東京工業大学 環境・社会理工 学院 准教授	土粒子と浸透水のミクロな解析に基 づく毛管バリアシステムの構築－持 続可能な都市の人・土・水の安全－	90
2	豊川 斎赫 (派遣・国際会議)	トヨカワ サイカク	千葉大学大学院 融合理工学府 地球環境科学専攻都市環境シ ステムコース 准教授	ICOMOS ISC20C(20世紀遺産国際学 術会議)年次会合、及びICOMOS年次 総会への参加	89
3	金澤 健 (派遣・共同研究)	カナザワ タケル	北海学園大学工学部 社会環境 工学科 准教授	フレッシュなセメント系複合材料の ポンピング挙動に関する解析的研究	90
4	櫻井 淳 (派遣・共同研究)	サクライ ジュン	文教大学 情報学部 専任講師	交通弱者に対する安全意識に関する タイと日本の国際比較 －自転車を 事例に－	90

合計 359

2022年度国際会議助成採択者一覧（8名）

（単位：万円）

No.	氏 名	フリガナ	所 属	国際会議の名称	助成額
1	和田 章	ワダ アキラ	一般社団法人 日本鋼構造協会 国際委員会 CTBUH 対応小委員会（「日中韓－高層建築フォーラム」実行委員長）	【和文】2023 日中韓-高層建築フォーラム（東京） 【英文】2023 China-Japan-Korea Tall Building Forum (Tokyo, Japan)	80
2	池上 高志	イケガミ タカシ	東京大学 大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 教授	【和文】デジタル時代における、アートと都市に関するシンポジウム 【英文】Symposium on the Relationship between the City and the Arts in the Digital Age	150
3	千葉 学	チバ マナブ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 教授	【和文】国立代々木競技場世界遺産登録推進国際シンポジウム 【英文】The International Symposium for World Heritage Nomination Promotion of Yoyogi National Gymnasium	150
4	尾本 章	オモト アキラ	九州大学大学院 芸術工学研究院 教授	【和文】第52回国際騒音制御工学会議 【英文】INTER-NOISE 2023, the 52th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering	150
5	久田 嘉章	ヒサダ ヨシアキ	工学院大学 建築学部まちづくり学科 教授	【和文】第16回日本地震工学シンポジウム 【英文】The 16th Japan Earthquake Engineering Symposium	150
6	風間 基樹	カザマ モトキ	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻 教授	【和文】第8回国際地震地盤工学会議 【英文】The 8th International Conference on Earthquake Geotechnical Engineering	150

No.	氏名	フリガナ	所属	国際会議の名称	助成額
7	福岡 孝則	フクオカ タカノリ	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 准教授	【和文】国際ランドスケープアーキ テクト連盟アジア太平洋地域2023日 本大会 (国際学生デザインWS)+G18 【英文】 IFLA Asia-Pacific Regional Congress 2023Tokyo, Japan (International Student Design Workshop)	150
8	泉山 壘威	イズミヤマ ルイ	日本大学 理工学部建築学科 助 教	【和文】ウォークブルシティ国際 フォーラム 【英文】 Walkable Cites International Forum	150

合計 1,130

2022年度講演会・展示会・セミナー等助成採択者一覧表（5件）

（単位：万円）

No.	氏名	フリガナ	助成先	展示会等の名称	助成額
1	菅谷 富夫	スガヤ トミオ	大阪中之島美術館	サラ・モリス展（仮称）	100
2	森田 洋平	モリタ ヨウヘイ	NPO法人なら国際映画祭	なら国際映画祭2022/なら国際映画祭ForYouth2022	100
3	豊川 斎赫	トヨカワ サイカク	一般社団法人国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会	丹下健三と隈研吾展	100
4	グッゲンハイム美術館	グッゲンハイムビ ジュツカン	グッゲンハイム美術館	Sarah Sze 展	134.53
5	小柳 敦子	コヤナギ アツコ	春日神霊の旅展 行委員会	実 特別展 春日若宮式年造替奉祝 「杉本博司-春日神霊御生御蓋山 そして江之浦」	100

合計 534.53

財団設立以来の各種助成事業の実施状況（2010年度～2022年度）

（2023. 4月現在）

助成対象区分		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
研究助成 (一般研究者)	応募総数	82件	88件	110件	88件	78件	85件	95件	105件	114件	102件	77件	82件	89件
	採択予定件数	12件	15件	17件	17件	18件	17件	42件	40件	40件	60件	45件	50件	62件
	採択件数	14件	16件	20件	30件	18件	35件	51件	49件	49件	70件	52件	51件	71件
	採択率 %	17.1%	18.2%	18.2%	34.1%	23.1%	41.2%	53.7%	46.7%	43.0%	68.6%	67.5%	62.2%	79.8%
	助成額（千円）	16,700	15,890	19,585	22,580	17,694	25,100	49,379.5	47,709	64,372.25	90,792	70,606	71,550	102,370
奨励研究助成 若手研究者 (博士課程在籍者)	応募総数	13件	12件	23件	10件	17件	10件	17件	12件	18件	9件	9件	20件	15件
	採択予定件数	10件	10件	5件	5件	5件	5件	10件	10件	6件	6件	6件	6件	10件
	採択件数	10件	9件	7件	8件	5件	7件	11件	10件	10件	7件	6件	17件	14件
	採択率 %	76.9%	75.0%	30.4%	80.0%	29.4%	70.0%	64.7%	83.3%	55.6%	77.8%	66.7%	85.0%	93.3%
	助成額（千円）	3,000	2,620	3,300	3,980	2,490	3,160	5,490	4,934	7,422.5	5,230	4,660	13,590	11,200
在外研修助成 (修士・博士 課程在籍者)	応募総数	3件	1件	0件	0件	0件	3件	0件	1件	0件	2件	1件	2件	0件
	採択予定件数	2件	2件	1件	1件	1件	1件	2件	1件	1件	1件	1件	3件	3件
	採択件数	2件	1件	0件	0件	0件	2件	0件	1件	0件	2件	1件	2件	0件
	採択率 %	66.7%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	助成額（千円）	600	300	0	0	0	850	0	500	0	1,280	700	1,780	0
国際交流助成	応募総数	8件	10件	12件	7件	6件	8件	3件	7件	7件	8件	5件	3件	4件
	採択予定件数	8件	4件	2件	2件	2件	2件	4件	2件	5件	5件	5件	5件	5件
	採択件数	8件	4件	3件	3件	2件	2件	2件	4件	4件	5件	5件	2件	4件
	採択率 %	100.0%	40.0%	25.0%	42.9%	33.3%	25.0%	66.7%	57.1%	57.1%	62.5%	100.0%	66.7%	100.0%
	助成額（千円）	3,842	1,845	1,570	1,800	1,200	1,200	1,160	2,100	2,443	4,340	3,940	1,800	3,590
国際会議助成	応募総数	10件	5件	7件	12件	13件	5件	8件	7件	11件	9件	5件	6件	12件
	採択予定件数	3件	4件	3件	3件	3件	3件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件
	採択件数	4件	4件	3件	5件	3件	3件	5件	5件	5件	6件	5件	6件	8件
	採択率 %	40.0%	80.0%	42.9%	41.7%	23.1%	60.0%	62.5%	71.4%	45.5%	66.7%	100.0%	100.0%	66.7%
	助成額（千円）	3,990	3,200	3,000	4,000	3,000	2,970	4,700	4,950	6,615	7,680	7,490	9,000	11,300
講演会・展示会・ セミナー等開催助成	応募総数	1件	3件	3件	3件	5件	3件	3件	2件	1件	4件	2件	3件	5件
	採択予定件数	2件	2件	4件	4件	4件	4件	8件	3件	3件	3件	3件	3件	5件
	採択件数	1件	3件	3件	3件	5件	3件	3件	2件	1件	4件	2件	3件	5件
	採択率 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	助成額（千円）	1,000	1,781	700	1,215	3,300	3,000	2,900	3,000	3,000	1,000	3,600	2,000	3,327
申請総数		117件	119件	155件	120件	118件	114件	126件	134件	151件	134件	99件	116件	125件
採択予定件数（合計）		37件	37件	32件	32件	33件	32件	71件	61件	60件	80件	65件	72件	90件
採 択 数		39件	37件	36件	49件	33件	52件	72件	71件	69件	92件	71件	81件	102件
採 択 率 %		33.3%	31.1%	23.2%	40.8%	28.0%	45.6%	57.1%	53.0%	45.7%	68.7%	71.7%	69.8%	81.6%
助 成 額（千円）		29,132	25,636	28,155	33,575	27,684	36,280	63,629.5	63,193.0	81,852.75	112,922	89,396	101,047.2	133,805.3

財団設立以来の各種助成事業の実施状況（1998年度～2009年度）

（2023.4月現在）

助成対象区分		1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
研究助成 (一般研究者)	応募総数	24件	56件	49件	41件	46件	53件	63件	81件	87件	73件	88件	81件
	採択予定件数	8件	10件	10件	10件	12件	12件	12件	10件	10件	17件	15件	12件
	採択件数	8件	10件	11件	13件	12件	12件	13件	11件	20件	18件	15件	12件
	採択率 %	33.3%	17.9%	22.4%	31.7%	26.1%	22.6%	20.6%	13.6%	23.0%	24.7%	17.0%	14.8%
	助成額 (千円)	12,000	14,850	16,340	19,470	17,711	17,580	19,360	16,500	29,250	26,320	22,154	17,660
奨励研究助成 若手研究者 (博士課程在籍者)	応募総数	9件	8件	12件	10件	9件	8件	7件	6件	4件	6件	3件	12件
	採択予定件数	8件	10件	10件	10件	10件	10件	10件	7件	7件	10件	7件	5件
	採択件数	9件	8件	10件	9件	9件	8件	7件	6件	4件	6件	3件	7件
	採択率 %	100.0%	100.0%	83.3%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	58.3%
	助成額 (千円)	2,700	2,380	3,000	2,700	2,700	2,400	2,100	1,800	1,200	1,800	900	2,100
在外研修助成 (修士・博士 課程在籍者)	応募総数			3件	3件	1件	2件	0件	1件	3件	2件	0件	1件
	採択予定件数			0件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件
	採択件数			3件	3件	1件	2件	0件	1件	3件	2件	0件	1件
	採択率 %			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	助成額 (千円)			900	900	300	600	0	300	900	600	0	300
国際交流助成	応募総数	17件	13件	7件	6件	8件	5件	7件	18件	5件	8件	10件	9件
	採択予定件数	8件	10件	10件	10件	10件	10件	10件	8件	8件	8件	8件	8件
	採択件数	8件	9件	7件	5件	8件	5件	7件	8件	5件	8件	9件	6件
	採択率 %	47.1%	69.2%	100.0%	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	44.4%	100.0%	100.0%	90.0%	66.7%
	助成額 (千円)	4,000	4,260	3,264	2,310	3,470	2,500	3,300	3,640	2,430	3,312	4,177	2,952
国際会議助成	応募総数	1件	6件	2件	1件	3件	4件	3件	6件	3件	7件	4件	14件
	採択予定件数	1件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	3件	3件	3件
	採択件数	1件	2件	2件	1件	2件	2件	2件	2件	3件	5件	3件	3件
	採択率 %	100.0%	33.3%	100.0%	100.0%	66.7%	50.0%	66.7%	33.3%	100.0%	71.4%	75.0%	21.4%
	助成額 (千円)	1,000	2,000	2,000	1,000	2,000	2,000	2,000	2,000	3,000	5,000	3,000	3,000
講演会・展示会・ セミナー等開催助成	応募総数		0件	1件	0件	1件	1件	0件	0件	0件	1件	1件	2件
	採択予定件数		2件	2件	2件	2件	2件	2件	1件	1件	1件	1件	1件
	採択件数		0件	1件	0件	1件	1件	0件	0件	0件	1件	1件	2件
	採択率 %		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	助成額 (千円)		0	1,000	0	1,000	1,000	0	0	0	1,233	500	1,000
申請総数		51件	83件	74件	61件	68件	73件	80件	112件	102件	97件	106件	119件
採択予定件数 (合計)		25件	34件	34件	37件	39件	39件	39件	31件	31件	42件	37件	32件
採 択 数		26件	29件	34件	31件	33件	30件	29件	28件	35件	40件	31件	31件
採 択 率 %		51.0%	34.9%	45.9%	50.8%	48.5%	41.1%	36.3%	25.0%	34.3%	41.2%	29.2%	26.1%
助 成 額 (千円)		19,700	23,490	26,504	26,380	27,181	26,080	26,760	24,240	36,780	38,265	30,731	27,012

2022 年度(第11期) 奨学生採択者大学名一覧表

No.	大学名	採択者人数	金額(千円)
1	筑波大学	2名	1,200
2	東京大学	1名	600
3	一橋大学	1名	600
4	慶應義塾大学	2名	1,200
5	早稲田大学	1名	600
6	名古屋工業大学	2名	1,200
7	豊橋技術科学大学	1名	600
8	大阪大学	1名	600
9	九州大学	1名	600
合 計		12名	7,200

II. 処務の概要

1. 役員等に関する事項

2023年3月31日現在

職名	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職	備考
理事長	非常勤	大林 剛郎	2022年6月26日	業務の総理	(株)大林組 代表取締役会長	
理事	同上	沖原 隆宗	2022年6月2日	業務の決議	株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問	
同上	同上	神戸 雄一郎	2021年5月31日	同上	かんべ土地建物株式会社 代表取締役社長	
同上	同上	佐和 隆光	2022年6月2日	同上	公益財団法人国際高等研究所 研究参与	
同上	同上	仲上 健一	同上	同上	立命館大学 OIC 総合研究機構サステイナビリティ学研究中心 上席研究員 立命館大学 名誉教授	
同上	同上	原口 達哉	同上	同上	日本生命保険相互会社 常務執行役員	
常務理事	同上	谷口 秀樹	2021年9月27日	理事長の補佐	(株)大林組	

監事	非常勤	小林 啓文	2022年6月2日	監査	小林啓文法律事務所 弁護士	
同上	同上	加賀谷 達之助	同上	同上	レオス・キャピタルワークス株式会社 常勤監査役	

職名	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職	備考
評議員会長	非常勤	大林 智子	2022年6月2日	議案の審議・助言	(株)TJ COLLECTION 代表	
評議員	同上	安藤 忠雄	2022年6月2日 任期満了		建築家	
同上	同上	岡野 光喜	2022年6月2日	議案の審議・助言	サンフロント21懇話会 代表幹事	
同上	同上	川村 恒明	2022年6月2日 任期満了		公益財団法人文化財建造物保存技術協会 顧問	
同上	同上	川村 喜久	2019年6月20日	議案の審議・助言	DIC 株式会社 取締役	
同上	同上	小寺 康雄	2022年6月2日	同上	(株)大林組 代表取締役副社長執行役員	
同上	同上	原 俊夫	2022年6月2日 任期満了		公益財団法人アルカンシエール美術財団 理事長	
同上	同上	富田 和孝	2022年10月5日	議案の審議・助言	日の丸交通株式会社 代表取締役社長	
同上	同上	藤本 壮介	2022年6月2日	同上	株式会社藤本壮介建築設計事務所 代表取締役社長	
同上	同上	森 京子	同上	同上	森美術館 理事	
同上	同上	森 佳子	2022年6月2日 任期満了		森美術館 理事長	

職名	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職	備考
選考委員	非常勤	大西 隆	2023年1月17日	助成候補の選考	東京大学 名誉教授	委員長
同上	同上	伊東 順二	同上	同上	東京藝術大学 COI拠点 特任教授	副委員長
同上	同上	青柳 いづみこ	同上	同上	大阪音楽大学 教授	
同上	同上	池田 靖史	同上	同上	東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻 特任教授	
同上	同上	土佐 尚子	同上	同上	京都大学防災研究所 特定教授	

職名	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職	備考
選考委員	非常勤	佐々木 葉	2023年1月17日	助成候補の選考	早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授	
同上	同上	平田 京子	同上	同上	日本女子大学 家政学部 住居学科 教授	
同上	同上	廣田 尚子	2023年1月17日 任期満了		有限会社ヒロタデザインスタジオ 代表取締役	
同上	同上	村木 美貴	同上	同上	千葉大学大学院 工学研究院 教授	
同上	同上	森 知也	同上	同上	京都大学経済研究所 教授	

職名	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職	備考
推薦 選考委員	非常勤	野村 しのぶ	2022年11月25日	助成候補の選考	東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター	委員長
同上	同上	保坂 健二郎	同上	同上	滋賀県立美術館 ディレクター(館長)	副委員長
同上	同上	飯田 志保子	同上	同上	キュレーター	
同上	同上	大坂 紘一郎	同上	同上	アサクサ 代表	
同上	同上	藪前 知子	同上	同上	東京都美術館 学芸員	

職名	常勤・非常勤	氏名	就任(重任)年月日	担当職務	現職	備考
奨学生 選考委員	非常勤	大西 隆	2022年4月27日	奨学生候補の選考	東京大学 名誉教授	委員長
同上	同上	三栖 健一	同上	同上	(株)大林組 本社人事部長	副委員長
同上	同上	佐々木 葉	同上	同上	早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授	
同上	同上	秋山 隆之	同上	同上	(株)大林組 本社土木本部担任副本部長	
同上	同上	安部 浩	同上	同上	(株)大林組 本社建築本部 本部長室長	

2. 職員に関する事項

職名	常勤・非常勤	氏名	採用年月日	担当事務	備考
事務局長 補佐	常勤	谷口 秀樹	2021年8月16日 ～ 2021年9月30日	事務局長の補佐	(株)大林組との出向契約による。
事務局長	同上		2021年10月1日	事務局の統括	
事務局長 代行	同上	井島 則之	2022年12月22日 ～ 2023年3月31日	事務局の統括	(公財)大林財団との委託契約による。
マネージャー	同上	吉川 裕子	2008年1月15日	総務・庶務	(株)大林組との出向契約による。
事務局員	非常勤	樋田 理沙	2019年6月10日	奨学事業全般	(株)大林組との出向契約による。
同上	常勤	中西 宣子	2012年10月1日	経理・庶務	(公財)大林財団との直接雇用による。

3. 会議等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	会議事項	会議の結果
2022年4月27日	1.2021年度事業報告書及び附属明細書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.2021年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録の承認の件	全会一致で承認・可決
	3.奨学生選考委員の選任の件	全会一致で承認・可決
	4.第34回評議員会を招集する件	全会一致で承認・可決
2022年6月2日	1.2022年度第1回業務執行状況の報告について	了承
	2.資産運用状況の報告について	了承
2022年6月26日	1.大林剛郎を理事長(代表理事)に選定する件	全会一致で承認・可決
	2.名誉評議員を選任する件	全会一致で承認・可決
	3.第35回評議員会を招集する件	全会一致で承認・可決
2022年9月13日	1.選考委員への謝金額を見直し、各選考委員会運営規則を改正する件	全会一致で承認・可決
	2.既存諸規程の改正の件	了承
	3.第36回評議員会を招集する件	了承
2022年11月14日	1.推薦選考委員の任期満了に伴う選任の件	全会一致で承認・可決
	2.選考委員の任期満了に伴う選任の件	全会一致で承認・可決
	3.基本財産である大林組株式の配当が増加することに伴い2022年度事業計画書及び正味財産増減予算書を修正する件	全会一致で承認・可決
2022年12月21日	1.制作助成プログラム「都市のビジョン」2023年度助成対象者の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.選考委員を選任する件	全会一致で承認・可決
2023年2月6日	1.第37回評議員会を招集する件	全会一致で承認・可決
2023年3月10日	1.2023年度事業計画書及び正味財産増減予算書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.株主権の議決権行使の件	全会一致で承認・可決
	3.2022年度の助成対象者決定について	了承
	4.2022年度第2回業務執行状況の報告について	了承

(2) 評議員会

開催年月日	会 議 事 項	会 議 の 結 果
2022年6月2日	1.2021年度事業報告書及び附属明細書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.2021年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録の承認の件	全会一致で承認・可決
	3.理事の選任の件	全会一致で承認・可決
	4.監事の選任の件	全会一致で承認・可決
	5.評議員の選任の件	全会一致で承認・可決
	6.2022年度第1回業務執行状況の報告について	了承
	7.資産運用状況の報告について	了承
	8.奨学生選考委員の選任について	了承
2022年7月10日	1.評議員会長選任の件	全会一致で承認・可決
	2.理事長の選任について	了承
	3.名誉評議員の選任について	了承
2022年10月5日	1.評議員の選任の件	全会一致で承認・可決
	2.選考委員への謝金額の見直し、各選考委員会運営規則の改正について	了承
	3.既存諸規程の改正について	了承
2023年3月10日	1.2023年度事業計画書及び正味財産増減予算書の承認の件	全会一致で承認・可決
	2.株主権の議決権行使について	了承
	3.2022年度の助成対象者決定について	了承
	4.2022年度第2回業務執行状況の報告について	了承
	5.選考委員の選任について	了承
	6.制作助成プログラム「都市のヴィジョン」2023年度助成対象者決定について	了承

(3) 選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2023年1月23日	1.選考委員長および選考副委員長の選出について	選考委員長を大西隆氏、選考副委員長を伊東順二氏に決定
	2.2022年度研究助成等の選考について	全会一致で候補者を選考決定
	3.2023年度助成事業に関するスケジュールについて	承認
	4.各種協賛について	承認

(4) 奨学生選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2022年7月19日	1.2022年度奨学生の選考の件	全会一致で候補者を選考決定

(5) 推薦選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
2022年9月2日	2023年度制作助成事業候補者検討(1回目)	10名の候補者について、推薦者から補足説明いただき検討を行った。
2022年9月13日	2023年度制作助成事業候補者検討(2回目)	候補者について、推薦者から補足説明や候補者の絞り込み等について、改めて検討を行った。
2022年10月4日	2021年度採択者(エキソニモ):記録冊子作成の進捗状況について	エキソニモより記録冊子作成の進捗状況について報告をいただいた。
2022年10月5日	2023年度制作助成事業候補者検討(3回目)	最終的に候補者を2名に絞り込む方針を決定した。
2022年10月26日	2023年度制作助成事業候補者検討(4回目)	最終候補者をイム・ミヌクとし、本人へコンタクトする事を決定した。
2022年11月21日	2023年度制作助成事業候補者との顔合わせおよび打合せ	イム・ミヌク氏と展覧会等について今後の進め方について検討を行った。

4. 許可、認可、承認、証明等に関する事項

申請年月日	申 請 事 項	許 可 年 月 日	備 考
	該当事案なし		

5. 契約に関する事項

契約年月日	契約相手方	契約の内容	契約期間
2023年2月14日	権 祥海	第4回制作助成採択者(イム・ミヌク氏)に関する調査活動および講演会などの実施、印刷物の制作 刊行	2023年2月14日 ～ 2024年12月31日

6. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	寄付金額
	なし	

7. 内閣府への届出・提出

連絡年月日	連絡事項	履行状況
2022年6月29日	2021年度事業報告書等の提出	電子申請による提出
2023年3月30日	2023年度事業計画書等の提出	電子申請による提出

予算対比正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	222,000,150	222,000,183	△ 33
基本財産受取利息	150	183	△ 33
基本財産受取配当金	222,000,000	222,000,000	0
特定資産運用益	3,000	0	3,000
特定資産受取利息	3,000	0	3,000
雑収益	0	5,444,198	△ 5,444,198
受取利息	0	8,524	△ 8,524
雑収益	0	5,435,674	△ 5,435,674
経常収益計	222,003,150	227,444,381	△ 5,441,231
(2) 経常費用			
事業費			
助成費	120,700,000	133,805,300	△ 13,105,300
制作助成関係費	4,000,000	6,380,498	△ 2,380,498
顕彰事業関係費	15,000,000	1,194,733	13,805,267
助成事業関係費	2,890,000	4,230,528	△ 1,340,528
奨学給付金	37,800,000	32,400,000	5,400,000
奨学事業推進費	3,000,000	2,892,577	107,423
直接事業費 小計	183,390,000	180,903,636	2,486,364
給料手当	10,569,020	10,882,403	△ 313,383
退職給付費用	300,300	303,911	△ 3,611
福利厚生費	907,060	963,369	△ 56,309
旅費交通費	337,500	0	337,500
通信運搬費	319,500	214,279	105,221
消耗品費	260,250	256,805	3,445
修繕費	48,000	67,650	△ 19,650
賃借料	4,185,000	4,184,379	621
管理諸費	66,600	68,805	△ 2,205
リース料	127,500	102,666	24,834
手数料	112,500	52,173	60,327

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
委託費	1,500,000	2,830,282	△ 1,330,282
情報公開データ整備費	2,241,750	2,746,351	△ 504,601
水道光熱費	27,000	30,673	△ 3,673
雑費	0	11,940	△ 11,940
間接事業費 小計	21,001,980	22,715,686	△ 1,713,706
事業費 合計	204,391,980	203,619,322	772,658
管理費			
役員報酬	780,000	780,000	0
給料手当	3,156,980	3,397,467	△ 240,487
退職給付費用	89,700	92,839	△ 3,139
福利厚生費	270,940	294,291	△ 23,351
会議費	353,000	1,000,172	△ 647,172
旅費交通費	112,500	175,832	△ 63,332
通信運搬費	106,500	227,065	△ 120,565
消耗品費	86,750	93,656	△ 6,906
修繕費	16,000	22,550	△ 6,550
印刷製本費	106,000	70,950	35,050
図書費	250,000	272,396	△ 22,396
賃借料	1,395,000	1,394,793	207
管理諸費	22,200	22,935	△ 735
リース料	42,500	34,222	8,278
手数料	37,500	66,099	△ 28,599
謝金	662,000	660,000	2,000
租税公課	10,000	2,900	7,100
委託費	500,000	1,223,927	△ 723,927
会費	134,000	105,800	28,200
情報公開データ整備費	747,250	4,539,950	△ 3,792,700
水道光熱費	9,000	10,224	△ 1,224
保険料	17,000	22,350	△ 5,350
雑費	383,840	259,214	124,626
管理費 合計	9,288,660	14,769,632	△ 5,480,972
経常費用計	213,680,640	218,388,954	△ 4,708,314
評価損益等調整前当期経常増減額	8,322,510	9,055,427	△ 732,917
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	8,322,510	9,055,427	△ 732,917

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	8,322,510	9,055,427	△ 732,917
一般正味財産期首残高	152,343,025	154,243,072	△ 1,900,047
一般正味財産期末残高	160,665,535	163,298,499	△ 2,632,964
II 指定正味財産増減の部			
基本財産評価損益	0	669,144,407	△ 669,144,407
当期指定正味財産増減額	0	669,144,407	△ 669,144,407
指定正味財産期首残高	6,572,365,886	5,899,491,421	672,874,465
指定正味財産期末残高	6,572,365,886	6,568,635,828	3,730,058
III 正味財産期末残高	6,733,031,421	6,731,934,327	1,097,094